



まちのシンボル「ひと・まち・ゆめ」

わか町

志津南

NEWS

志津南ホームページ
http://waka-kusa.net/

発行
志津南地区まちづくり協議会
連絡先
志津南市民センター (563-6206)

まちづくり行動計画特別委が中間答申

喫緊の課題に方向示す

CATV活用、自主防災など

まちづくり協議会理事会から、まちづくり行動計画特別委員会（向出委員長、大上委員、西村委員、大楽委員、北岡委員）に諮問していた事項のうち喫緊の課題3件に関して、同特別委は8月23日、中間報告をまとめた答申書を理事会に提出しました。写真。

特別委員会は5月から8月までの4か月間、毎週会合を重ね、熱心に議論を交わすとともに、草津市の担当部署の責任者とも意見交換し、中間報告としてまとめました。

この「中間報告」に盛り込まれた内容について、まち協理事会は9月1日から協議を開始、協議を深めることにしています。

特別委から提出された中間報告の概要は次の通りです。

①集会所の将来的な利用構想
集会所の利用構想を明確にし、それを踏まえた資金計画を策定するため「検討委員会」を立ち上げ、その具体案に関して住民にくわしく説明、少なくとも過半数、望ましいのは3分の

2以上の同意を得る必要がある。

また、現行の集会所管理の規定は具体性に欠け、管理町内会の運用に委ねられているので、共通・統一の管理要領を定め、確実に管理できるシステムに改



められるべきである。

②CATVの有効な活用策
若草地区では当初から、CATV加入が義務付けられており、契約は個人単位で行っているものの、地域全般に共通する事項については、地域を代表するまちづくり協議会がCATV会社との交渉の主体となるべきである。共通事項としては、サービス内容、告知放送運用基準、草津市一斉放送との連動、セキュリティ機器の保守点検等が

考慮される。

考えられる。

また、CATVを含めて、地域の情報組織を総合的に再構築する必要があると思われるが、それに立命館大学の知見を活用することが望ましい。

③実効性の高い自主防災組織

各町自主防災会の役員を、町内会役員の兼務ではなく専任の役員とし、任期も3年程度とする。また、大規模災害・広域災害を想定した地域全体の活動を担うため、各町自主防災会の上部組織として地域自主防災会を設ける。この役員のうち会長・副会長は地域全体から選出し、任期も3年程度とする。それぞれの組織の役割分担を明確にし、また日常的活動と災害時活動を確定しておく。

夏まつり写真展開く

最優秀賞に山本さん（若草8）

志津南ふれあい夏まつり実行委員会（小川裕民委員長）は7月28日に開催した第15回「ふれ



最優秀賞に選ばれた山本さんの作品

あい夏まつり」の思い出を記録に残してもらおうと8月24日、25日の2日間、志津南市民セン



展示された作品を観賞する来館者

ターサロンにパネルを展示しました。

どの作品も子どもたちが一生懸命になっている姿は、夏まつりの思い出にふさわしいものばかりでした。

出展していただいた方は10人で作品16点と予想外に少なう、いささか寂しい感じもしましたが、来館者や夏まつり実行委員会の反省会に出席されたみなさんから116票の投票をいただきました。

集計の結果16票を獲得した山本耕司さん（若草八丁目）が見事最優秀賞に輝きました。その他優秀賞3人、特別賞1名を選び、それぞれに図書カード、出展者全員に新聞販売店から提供してもらった参加賞（ドラえもん・ルーフ・エコバック・うちわなど）を贈りました。

子ども会資源回収

9月16日・10月7日

若草一丁目〜五丁目

9月23日・10月14日

若草六丁目〜八丁目

岡本町西・グリーンピア

回収品

古新聞（チラシと一緒で可）

古雑誌・段ボール・古着

☆朝9時までに自宅前へ

南っ子、ものづくり挑戦

木のプランターに取り組み子どもたち



夕食は地域や各種団体の方々の協力を得ながら、子どもたちは棒餃子を作り、豚丼、サラダと共にみんなでおいしくいただきました。夜は映画「ET」を鑑賞、子どもたちはじっと見入っていました。

二日目は若寿会の協力を得て

志津南地区地域協働合校事業「南っ子宿泊体験2012」が8月4日、5日の二日間、志津南市民センターで行われました。今年度は「地域の人と協力して、ものづくりの楽しさを知ろう」をテーマに4年生から6年生の24人が参加しました。

午後1時の開校式のあと、子どもたちは地域のNPO法人アルファ工房の扇寛さんの指導で、かなつちとくぎで杉のプランターを組み立てました。バーナーで焼杉プランターを完成させると、次は花ポランティアの三根さんらの指導で夏花壇の常連ポーチユラカ(ハナスベリヒユ、松葉牡丹)の苗を植えまし

ラジオ体操からスタートしました。朝食の後は、木を使ってムササビの人形製作を行いました。胴体と頭、しっぽをおまかに切って作った木をなめらかにするようにヤスリで削りました。後日市民センターで耳と目を付けて仕上げることにしています。

この二日間で子どもたちは普段できないことを地域の皆さんと共に数多く体験でき、夏休みのいい思い出を作ってくれたと思います。暑い中、お世話いただいた地域の方々、各種団体、志津南小学校の先生方ありがとうございました。



やすらぎ学級で「笑い与健康講座」



落語で笑い、体操で体ほぐす

志津南市民センター(公民館)は8月22日、やすらぎ学級第3回(公開)講座を同センターで開催、51人が参加しました。今回は「笑い与健康体操」と題し、大阪ガスグループ福祉財団の協力を得て落語家の桂三金さんと健康トレーナーの堀江利恵さんを講師に招きました。最初は桂三金さん「写真」の落語で、初めにご自身の大きな体格にまつわる話から日常にころがっている面白いことなどを話すと会場からどっと笑いが起こりました。

本題の落語では、植木職人が仕事先の夫婦の粋な会話を気に入り、四畳半の自宅で真似してみせる古典落語「青菜」が披露され、会場は笑いに包まれました。後半は、堀江利恵さんの軽快な指導でイスに座って手軽にできる手の体操や手拭いを使った体操をして体をほぐしました。参加者は、落語で顔の筋肉を動かし、体操で体を引き締め、笑顔で楽しい時間を過ごしました。



スライドを映しながら話を進める杉江さん

人権講座で「人権って何？」を学ぶ

志津南公民館・志津南地区人権教育推進委員会共催の「人権講座・第三講座」が8月25日、志津南市民センター(公民館)で開か

れ、草津市同和教育啓発講師の杉江範昭さんが「じんけんって、だれのもの? 学ぶのはなぜ?」と題して講演、大勢の

住民が真剣に耳を傾けました。杉江さんは「私たち一人ひとりの夢や希望を大切に、これを表現できることが人権が守られていることで、本人の努力でどうにもならないこと(性別・国籍・居住地・年齢など)で妨げられることがあれば問題」と指摘、「人権は自分自身のものだ」と話されました。その上で「今の社会は変化していて、かつてセクハラと言われなかったことでも、今ではセクハラとなるように、人権や差別にたいする基準も変わってきて、それぞれ学びや生き方が少しずつ社会を変えます。今後の町内学習懇談会に向けて、人権が守られる明るい地域社会―志津南地区のまちづくりのために大変役立つお話でした。」

という例から学びました。それを学びや生き方が少しずつ社会を変えます。今後の町内学習懇談会に向けて、人権が守られる明るい地域社会―志津南地区のまちづくりのために大変役立つお話でした。

愛のパトロール始まる

志津南地区青少年育成委員会（斎藤充浩委員長）は毎年、各町内会役員の皆様のご協力をいただきながら「愛の声かけパトロール」を行っています。



パトロールする町内会役員ら

このパトロールは大人が子どもたち一人ひとりを温かく見守りながら地域の連帯の輪を広げ、子どもたちの健やかな育成を図る取り組みの一つで、今年も八月四日からパトロールを開始しました。

スターグリーンヒル店、セブンイレブン若草店、シャンテモールといった商業施設や若草中央公園をはじめとする各公園を重点的に見回ります。二月末まで毎週土曜日の夜冬季（夕方）一時間程度、巡回を行う予定です。

地域の皆様のご協力をよりしくお願いいたします。また、何か気づいた点がありましたらパトロールメンバーに遠慮なくお申し出ください。

世代超えラジオ体操



清々しい空気の中で「二、三

志津南小PTAは7月23日から8月10日までの前期と、8月20日から24日の後期あわせて20日間、地域内の各公園で毎朝7時半から恒例の夏休みラジオ体操を実施、延べ約3600人が参加しました。

すがすがしい朝の澄んだ空気の中、早めに来てラジオ体操を待つ子、少し眠そうな目をしてる子、急いで走って駆けつける子、保護者と一緒に参加の未就学児。みんな元気いっぱい体を動かしていました。

このうち、若草中央公園では、奥田隆三（若寿会代表）さんの指導で第一、第二体操まで行い、同会の皆さんや地域の方々も大

言葉のこほれ話

インゲン

「インゲン」といえば、お惣菜に用いる豆の名前です。でもこの名はインゲンマスを日本にもたらした中国の高僧隠元禪師からきているのです。

隠元は明の時代に、中国福建



省の黄檗山萬福寺の住持として臨済の正脈を伝えました。長崎興福寺に請われて来日、その後摂津、江戸へ

と移りました。

將軍家綱が隠元のために寺地を山城宇治に寄進、中国の本寺を模して建てられたのが現在、宇治にある黄檗山萬福寺です。

ちなみに黄檗は薬用植物「キハダ」の漢名で健胃剤で、ダラ

ニスケ（陀羅尼助）製造に用いられます。

隠元によってさまざまな明の文化が日本にもたらされました。豆もその一つです。

また、「一を「レン」、東を「トン」と発音する明の音が新しい漢字音として加わりました。

忘れてはならないのは、隠元が中国からもたらした大蔵経です。これは仏法に関わる一切の書物、ということ

で一切経とも言われます。この明の大蔵経を元に、隠元の弟子、鉄眼が十三年をかけて印刷、出版したのが鉄眼版一切経です。

一枚の紙に二十字二十行、四百字の原稿仕様は、日本においてこの鉄眼版一切経に始まります。よく眼にする明朝体もまた、ここから始まりました。

豆を見て活字を想うことは難しいかもしれませんが、その由来を考える気持の余裕は持ちたいものです。

栄養素を学ぶ

志津南健康推進員連絡協議会（小早川敏子代表）は8月23日



パネルを使って栄養素を勉強

小学生を対象に夏休み食育講座を「ふれあいハウス絆」で開きました。

講座には幼児、小学生10人、大人10人、民生委員3人、あわせて23人余が参加、どのような食べ物か体の栄養素になるのか、赤・緑・黄の三色の大きなフルトパネルを使って勉強しました。

また、説明を聞いた子どもたちは健康スタンプとペアになりバランスの良い食事のことを考えながらメニュー作りに挑戦しました。多くの食材の中から選びながら三色バランスよく完成させていきました。

続いて「三色バランス折り紙」は苦戦ながらも上手に折りあげました。

「できたー」「おいしそう」「おうちに帰ったらこれを使ってお母さんに説明するね」と、楽しみながら栄養素の説明が身についていたようでした。最後は健康手づくりの「サツマイモ・レーズン入り蒸しケーキ」を作るみじやこをプレゼントしました。

こよみ

- 9月17日 (月・祝)
10:00~12:00
★敬老会
- 9月19日、20日 (水、木)
10:00~15:00
★つどい推進事業
- 9月22日 (土)
8:30 若草中央公園集合
☆社会奉仕
- 9月24日 (月)
10:00~13:00
★健康推進員・料理講習会
- 9月25日 (火)
10:00~11:30
★地域サロン: 懐メロを歌う会
- 9月29日 (土)
8:15 若草中央公園集合
☆健康ウォーキング
- 10月5日 (金)
12:00~13:00
★ふれあい昼食会
ボランティア「泉」
- 10月6日 (土)
10:00~11:30
★家庭教育支援講座
- 10月9日 (火)
10:00~11:30
★地域サロン: 懐メロを歌う会
- 10月13日 (土)
8:15 若草中央公園集合
☆健康ウォーキング

- 毎週金曜日
10:00~12:00
☆ふれあい喫茶 (お茶の間)
若草第五集会所 (五丁目)
- 毎週金曜日を除く毎日
10:00~16:00
☆ふれあいハウス「絆」
若草第六集会所 (六丁目)
- ★印の場所は志津南市民センター (公民館) です

町内学習懇 談会の日程

- 若草一丁目 10月21日 (日)
18時 第一集会所
- 若草二丁目 10月20日 (土)
19時 第一集会所
- 若草三丁目 10月20日 (土)
18時 市民センター
- 若草四丁目 10月20日 (土)
14時30分 市民センター
- 若草五丁目 10月21日 (日)
18時 第五集会所
- 若草六丁目 10月20日 (土)
18時 第七集会所
- 若草七丁目 10月21日 (日)
18時 第七集会所
- 若草八丁目 10月20日 (土)
18時 市民センター
- 岡本町西 10月20日 (土)
18時 市民センター

親子ふれあい 広場の開催

志津南地区民生委員児童委員協議会は次の要領で「親子ふれあい広場」を開催します。
一般の方々も多数お越し下さい。
▽日時 10月11日 (木)
10時30分~11時30分
▽場所 志津南市民センター

講座参加者を募集

志津南公民館主催の平成24年度家庭教育支援講座を志津南市民センター (公民館) で次の要領で開催、参加者を募集します。
日時 10月6日 (土)
午前10時~11時半
場所 志津南市民センター (公民館) 会議室
内容 「おやこでヨカ」お母

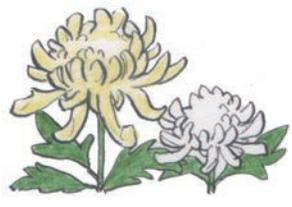
内容	対象	受講料
「おひさま楽団」による歌や演奏、パネルシアターなど	志津南市民センター (公民館) 在住・在勤の保護者と未就学児 (1歳以上)	託児あり無料 1組300円 2人目の子どもから1人150円加算。

定員 20組 (先着順)
申込み 9月24日 (月) 17時
まで
志津南市民センター (公民館)、受講料を添えてお申し込みください
(電話申し込み不可)

血液とびらり 料理講習

健康推進員連絡協議会 (小早川敏子代表) は「血液をさらさら」をテーマに料理講習会を次の要領で開催します。男性の参加も大歓迎です。
日時 9月24日 (月)
午前10時から
場所 志津南市民センター調理室
定員 20人
材料費 300円
持ち物 筆記用具
締め切り 9月18日 (月)
申し込み 志津南市民センター

折々の記



が、本当に子どもが課題を克服する手助けになっているのだからかと考えさせられるひと時であった。

小学校時代に育てなければならぬ発達課題は「自己有能感」である。とくに、他の人との比較ではなく、自分には自分なりの力があるという感覚を身につけさせることが大切である。そのために、私たち大人に何が出来るのだろうか。

親がわが子にける願いは実に大きい。子どもをためを思っ
てあれやこれやと何かと手厚く愛情を注いでいるし、子どもの将来に期待もしている。

思えば、どれほどの手間とお金をかけていることだろう。この子たちが将来の社会の大事な担い手となるように、私たち大人はできる限りのことをし

心の貯金

「してやって」いることが、子どもの成長にとってどんな意味を持っているのかについては、それほど深く考えることはない。

先日、小学校の地域別懇談会で、「心の貯金」というテーマで話し合いをした。私たちの発達や成長には決まった道筋があり、どんなに社会が変わろうとも、それぞれの発達段階で克服すべき課題があるという。私たちの今の子どもへのかわり

失敗を上司に指摘されて立ち直れない若者の話を聞くと、今の子どもにもこそ失敗から学んでほしいと願わないではいけない。

私たちの願いや期待もあるけれど、子どもには子どもの人生がある。自分の人生を強くたくましく、社会のために歩んでいけるよう、与えるだけでなく見守り、励ます立場で、子どもの心の貯金を増やしていきたい。

(趣味は貯金)